

A long time ago, there was a house in which a mouse, a small bird and a sausage lived together.

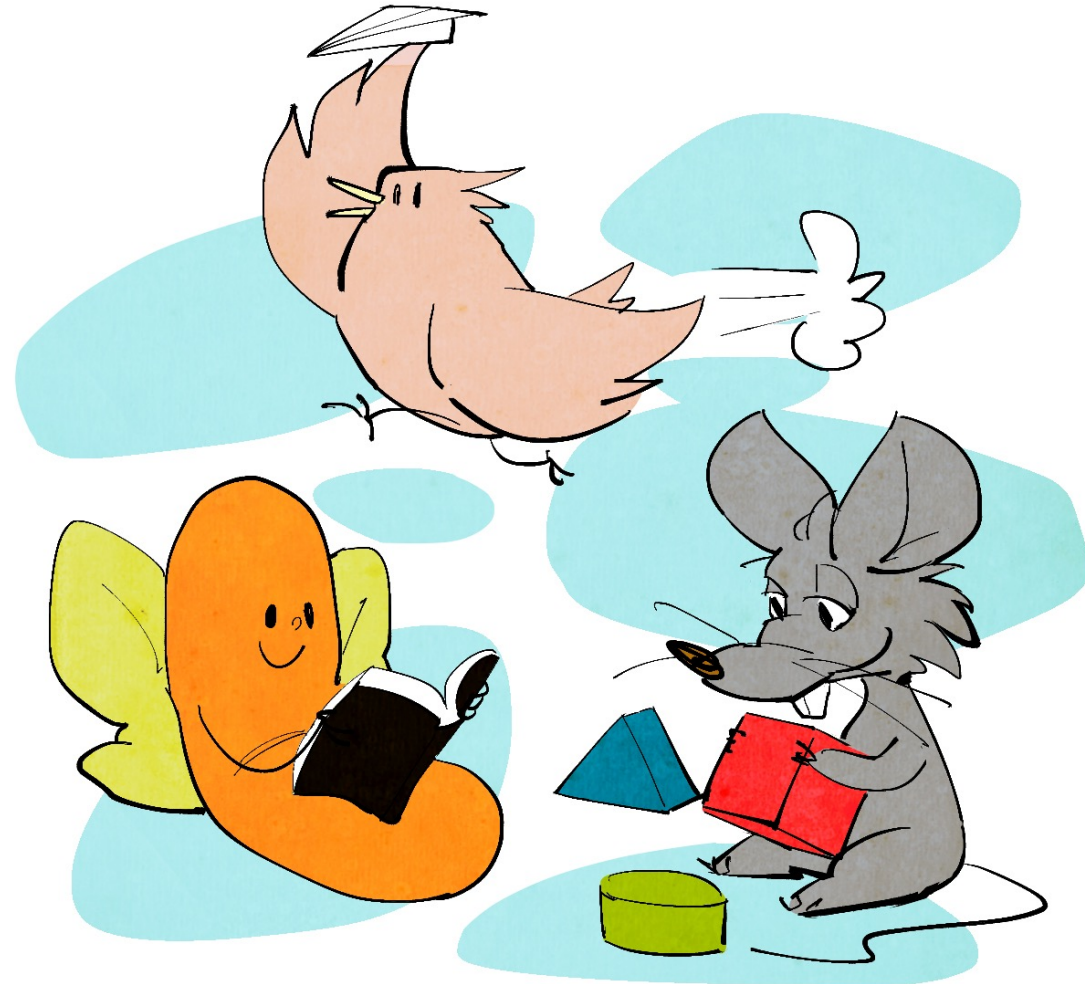
The three cooperated well, and each of them had a different job to make their living.

The small bird flew into a forest and collected firewood.

The mouse filled up a pot with water and made fire to heat it up.

The sausage prepared their meals and swam in the boiling pot to make a broth.

They all had different roles; therefore, they all got along well and lived happily.



One day, the small bird was picking up tree branches, and then he met his friend crow.

The small bird spoke to the crow about his living with other two, and then:

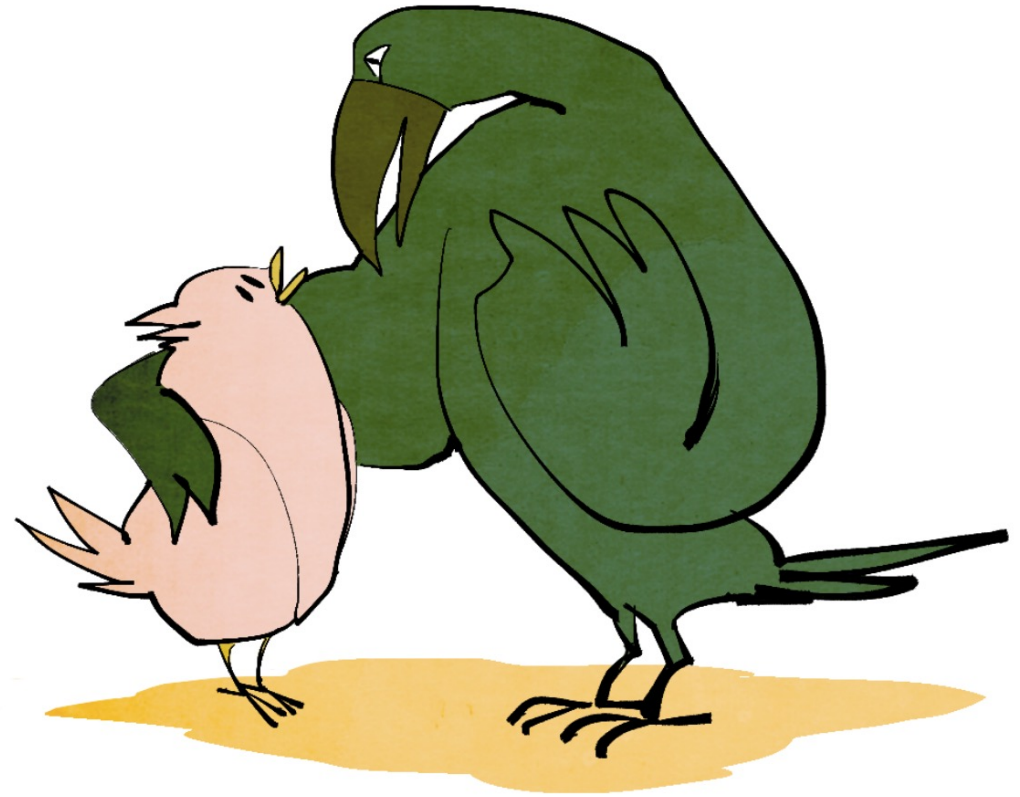
"You are so stupid. You are doing the toughest work out of the three."

"Eh! I don't think so."

"I reckon the other two are having much easier time than you. I bet they are sleeping right now."

"Hmmm, maybe."

The small bird continued to collect firewood that day, as he contemplated what the crow had told him.



むかし あるところに、『はつかねずみ』と
『ことり』と 『ソーセージ』が、
いっしょに すんでいる いえが ありました。
さんには それぞれ ぶんたんして、
じぶんの とくいなことをして
せいかつしていました。

ことりは、そらを とんで
もりで たきぎを ひろってくること。
はつかねずみは、なべに みずを くんで、
ひを おこすこと。
ソーセージは、しょくじを つくり、
さいごに ふっとうした なべの なかを
ひとおよぎして、だしを とること。

こうした やくわりを しっかりと
まもっていたので、さんには とても なかよく、
へいわに くらしていました。



あるひ、ことりが もりで
たきぎを ひろっていると、
そこで ともだちの からすに であいました。

ことりが からすに、じぶんたちが さんにんで
なかよく くらしていることを はなすと。

「ばかだなあ。きみが いちばん
たいへんな しごとを しているじゃないか」
「ええ！そんなこと ないよ」
「ほかの ふたりは、きみより
ずーっと らくしていると おもうぜ。
いまごろは、いえで おひるねでも しているさ」
「う～ん、そうかなあ・・・」

ことりは そのひ いちにち
たきぎを ひろいながら、
からすの いったことを かんがえていました。

